

(お知らせ)

令和2年8月28日
防 衛 省

フィリピンへの警戒管制レーダーの移転について

防衛省は、2014年4月に防衛装備移転三原則が策定されたことを受け、防衛装備品の移転に向けて取り組んでまいりました。

このような中で、2018年にフィリピン空軍が着手した警戒管制レーダーの選定に対して、三菱電機(株)は自社製レーダーを提案し、防衛省は日本製レーダーの採用に向けた活動を行ってきたところ、今般、フィリピン国防省と三菱電機(株)の間で同社製警戒管制レーダー・4基を約1億ドルで納入する契約が成立いたしました。

当該レーダーは、三菱電機(株)がフィリピン空軍の要求に基づき、自衛隊向けのレーダーを製造した経験を踏まえて、新たに開発・製造するもので、我が国から海外への完成装備品の移転としては初の案件です。

我が国にとってフィリピンは、共通の理念と目標を有する戦略的パートナーであり、フィリピンとの防衛装備協力を推進することは、我が国及び地域の平和と安定の確保においても重要です。この観点から、本契約が成立することは大変意義のあるものと考えています。

以上

1 契約の概要

○ 契約当事者

フィリピン側：フィリピン国防省

日 本 側：三菱電機(株)

○ 契約金額

約1億ドル

○ 契約内容

①納入物：レーダー・4基(固定式・3基、移動式・1基)等

②契約成立日：2020年8月25日

○ レーダーの概要

フィリピン空軍の要求に基づき、航空自衛隊固定式警戒管制レーダー装置（J/FPS-3）及び陸上自衛隊対空レーダー装置（JTPS-P14）を開発・製造した経験を踏まえ、三菱電機において新たに開発・製造するもの



※ 写真は、自衛隊のレーダーであり、今回移転することとなるレーダーとは異なる。

2 フィリピンとの装備協力の実績

○ TC-90 の 移 転：機体5機を引渡し済（～2018年3月）。

○ UH-1H 部 品 の 移 転：部品約4万点を引渡し済（～2019年9月）。

以上